

N K H

長岡市立科学博物館報

No. 61 1992

上信越高原国立公園谷川地区
—三国山周辺の植物—



N K H

61号
1992年3月

上信越国立公園谷川地区
三国山周辺の植物

西山 邦夫

はじめに

三国山は新潟県と群馬県との県境にあり、上信越高原国立公園谷川地区の最南端に位置する海拔1,636mの山峰で、亜高山植生の発達と稀産植物の分布地として貴重な地域である。また登山道もしっかりとしており、国道17号線の群馬県境にある三国トンネル脇から始まり、三国峠を経て山頂に約1時間30分で到達出来る手頃なハイキングコースである。さらに高山の雰囲気を味わえる山として人気があり、四季を通じておとずれる人々は年々増加の途をたどっている。

山体南の鞍部、三国峠1,320mは、大同年間（806~810年）に江戸への道が開通したといわれる旧街道で、近世街道交通の重要な役割をはたし、旅路の無事を祈ってまつられた御坂三社神社などの史跡もある。

本小冊子は行政区画にとらわれず群馬県側までも含め、北は平標山から三国山周辺のゆたかな植生について概要を紹介し、自然探索のための資料としたい。そして県境の三国山周辺で交差している郷土の日本海側植物、関東の太平洋側植物の観察の手引き書としてご活用いただければ幸いです。

〈表紙写真〉三国峠から見た三国山体

〈表紙文字デザイン〉本間正三



▲図1 三国山への登山口



▲図2 三国峠に至る登山道



▲図3 三国峠の御坂三社神社

三国山周辺の環境

平標山(海拔1,983m)から南に伸びる稜線は大源太山(1,763m)、三国山と連なり、西方に屈曲して稻包山(1,597m)に続く。この長い県境を走る尾根筋は、国立公園の区域の指定で、第二種特別地域に指定されている。また、群馬側の深く浸食された法師沢も第二種特別地域で、一部の沢沿いが第三種特別地域に指定されており、いずれも許可を得なければ植物採集は禁止されている自然環境上重要な地域なので注意しなければならない。

この県境を走る海拔1,500mほどの尾根筋は、日本海側と太平洋側を分ける背梁山脈として分水嶺の役割を果している。また、当地域は、日本海側、太平洋側双方の気象の影響を受けており、特殊な気象条件を作り出し、快晴や晴れの日が少なく降水日数が多い。

当地域を源とする河川は、群馬県側では法師沢、ムタコ沢を合せ、西川となり赤谷湖で止水し、やがて放水された流路は赤谷川となって利根川に合流してはるかな太平洋に流れ出る。

新潟県側は湯之谷、北ノイリ沢を合せ、浅貝川となり清津川に合流する。清津川は水量を増して下流で閃緑ひん岩帯を貫き、清津峡という景勝地をつくり、信濃川に合流し、遠く日本海にそそぐ。

三国山地域は地質的には第三紀系の赤谷層で泥岩、黒色頁岩からなっている。

三国山周辺の植生の概要

国道17号線の東側に位置する平標山から三国山に至る山麓部は、広範囲に渡ってブナ、ミズナラの混交林が多く、一部にはブナ林がみられる。

これらのブナ林は、立地の差異によってヒメアオキーブナ群集とマルバマンサクーブナ群集に大別される。低海拔で腐植土層の厚い立地にはヒメアオキーブナ群集が成立し、林床には、低木層としてオオカメノキ、オオバクロモジ、エゾユズリハなどが繁茂し、ブナの純林となる場合が



▲図4 三国山の北方に位置する平標山



▲図5 三国山中腹の高茎草原



▲図6 三国峠から見た群馬県側の法師沢

多い。しかし、時おり高木層にはホウノキ、ミズナラ、アカメイタヤなどの混交する林も見られ、これらのブナ林は、当地域では山麓から稜線部にかけて発達する。

一方マルバマンサクーブナ群集は、ブナ域の上部や乾燥した尾根筋に成立し、草本層にマイヅルソウ、イワウチワ、ツバメオモト、コニネカエデ、ホツツジなどが生育する。そして所によっては高木層にダケカンバ、オオシラビソが混交する場合がある。これらのブナ林は主に海拔の高い平標山の南西斜面、大源太山の西斜面、三国山の北西斜面の一部で見られる。

ブナ林は所によっては伐採されカラマツやスギの植林になっている所も多い。

高木限界は、傾斜角度の差、斜面の方向、尾根の介在などによって多少の違いはあるが、ほぼ海拔1,400~1,500mであり、ブナ林の上部は自然低木林、一部に高茎草原、さらにササ群落となって稜線部や山頂へと続く。

自然低木林は海拔の高い急傾斜地や風衝地に発達し、ミヤマナラ、ベニサラサドウダン、アズマシャクナゲ、ブナ、アブラツツジ、コニネカエデ、ウラジロヨウラク、マルバマンサク、コシアブラ、ノリウツギなどの混交する低木林で、草本層にはトウゲシバ、シノブカグマ、コニネカエデ、ツルシキミなどが生育し、構成種はマルバマンサクーブナ群集との共通種が多く見られる。

高海拔でさらに風衝の強い平標山周辺の斜面にはチマキザサを混え、アズマシャクナゲ、クロズルなどが混生し、さらに背丈の低い群落を形成する。これらの上部にはササ群落が発達し、平標山斜面の群落は大規模で、草本層にはツマトリソウ、ゴカヨウオウレン、マイヅルソウ、ミヤマアキノキリンソウ、イブキゼリなどがわずかに生育する。

風当りが特に強い平標山周辺は、尾根の肩沿いの新潟県側に所によってハイマツを含むアズマシャクナゲ、コニネカエデ、



▲図7 三国山西斜面に点在するウラジロモミを含む針葉樹



▲図8 三国山山麓部のカラマツ林



▲図9 群馬県側ムタコ沢の植被率の低いブナ林の林床

タカネナナカマド、チマキザサなどの混交する風衝低木林が成立する。隣接した乾地には、ショウジョウスゲ、ハクサンフウロ、ミヤマアキノキリンソウなどが混生する風衝草原が発達する。また、これらの群落周辺の岩礫地には、ショウシュウオニアザミ、タカネアオヤギソウ、ミヤマコウゾリナ、タテヤマツボグサ、ハコネギク、ハクサンフウロ、ホソバコゴメグサなどが混生するお花畠が発達する。

平標山から主稜を南に下って三国山、群馬県側の稻包山と続く尾根筋は、風当たりが強く、所によっては低木型のブナ、ダケカンバの混交林が見られる。低木層にはノリウツギ、ミヤマナラ、ミネカエデ、オオバスノキなどが生育し、草本層にはホソバカンスゲ、タケシマラン、ヤマドリゼンマイ、シノブカグマなどがみられる。

同じ主稜でも一段と風当たりの強い立地にはベニサラサドウダン、テツカエデ、ノリウツギなどの低木群落が発達し、草本層にはタガネソウ、イブキゼリ、ノギラン、ヒメノガリヤス、ミヤマアキノキリンソウなどが生育する。

三国山南面の中腹から山頂にかけては岩礫崩壊地植生、通称お花畠が発達し、ニッコウキスゲ、イワインチン、エゾシオガマ、ヒツバヨモギ、ハコネギクなどが生育する。

国道17号線を挟んで三国山の西側に位置する海拔1,430mほどの向山周辺は、広くブナ、ミズナラの混交林で覆われ、オオシラビソ、クロベ、コメツガなどが点在する。また、当地域周辺には水量の豊かな沢々が多く、沢の植生はサワグミ、ブナ、ミズキなどを主とする溪畔林が発達する。

群馬県側で稻包山の山麓から山頂に至る広範な地域は、樹高18mほどのアカシデ、コナラ、ブナ、イヌブナ、ミズナラなどの混交林が占める。この混交林の亜高木層は、マンサク、ナツツバキ、コハウチワカエデ、ネジキなどであり、低木層はウ



▲図10 三国峠周辺で見られるミヤマノキシノブ



▲図11 群馬県法師沢で見られるミヤマツチトリモチ



▲図12 三国山周辺山麓部で見られるフシグロセンノウ

ラジロノキ、バイカツツジ、イトマキイタヤなど表日本系の植物が多く見られる。草本層はアクシバ、チゴユリ、オオバクロモジ、ヤブレガサなどで、植被率も20パーセントと低く、新潟県側の藪状の林床とは趣が異なる。また沢筋にはスギの造林地も多い。

法師沢入口に当る西川沢は、樹高12mほどのイヌブナ、ブナ、コハウチワカエデ、ハルニレなどの混交林が発達する。低木層はマンサク、バイカツツジ、ネジキ、フジキ、ナツツバキなどが生育する。また、沢筋に点在する高木のミズナラ、コナラなどの樹幹にはビロードシダやミヤマノキシノブ、ノキシノブなどが着生し、人目を引く。

法師沢はスギの造林地の他、随所にブナ林が見られる。亜高木はハクウンボク、低木層にマンサク、サラサドウダン、バイカツツジ、コアジサイ、草本層にシシガシラ、ホソバカンスゲ、オクモミジハグマなどが生育する。また一部の林床には寄生植物のミヤマツチトリモチが見られる。

イヌブナは群馬県側に点在するが、県境を越えた北側の新潟県では確認されていない。

このように平標山を含む三国山周辺の植生は、高度のある背梁山脈の県境を挟んで、北方の新潟県側、南方の群馬県側で異なる。そしておおまかには、山麓部はブナ林、植林されたスギ林、カラマツ林、ブナ、ミズナラを中心とする混交林でおおわれ、その上部にはミヤマナラやツツジ科を中心とする自然低木林が発達し、さらにササ草原となって稜線部や山頂へ続く。

稜線部は風当たりが強く、その立地条件に対応して高山ハイデ及び風衝草原など多様な群落が発達し、当地域には分布や生態の上で注目すべき植物も少なくない。

三国山の植生

新潟県側の西斜面で、国道17号線の走る山麓海拔1,000mから山腹の海拔1,500



▲図13 大輪の白花をつけるオオヤマレンゲ



▲図14 マルバマンサクの母種マンサク(撮影、樋熊清治氏)



▲図15 松手山に分布するナツグミ

mと南西斜面の海拔1,300m付近までは、ブナーミズナラ群落で、ミズナラを主にシナノキ、クマシデ、ハリギリなどの高木が混交する。ミズナラの巨木には稀産種のミヤマノキシノブの着生なども見られる。亜高木層にはテツカエデ、サワシバ、ミズキなどが生育する。低木層にはハウチワカエデ、オオバクロモジ、ムシカリ、ノリウツギ、ユキグニミツバツツジ、バイカツツジなどが生育し、草本層には、ツルアリドオシ、ツクバネソウ、ショウジョウウバカマ、暖地性のウスヒメワラビや常緑低木のハイイヌガヤ、ヒメモチ、ハイイヌツゲなどが見られ、チシマザサの優占する林床もある。これらの林は全般的にブナ林との共通種が多く、過去にブナ林が伐採され、その後に成立した二次林の様相が強い。

南西斜面の海拔1,300mから上部の海拔1,500m周辺までは、冬期の積雪や季節風の影響による風衝低木帯が、硬質頁岩の角礫からなるガレ場に発達する。

それは、樹高1~2mほどで、ベニサラサドウダン、ウラジロヨウラク、ホツツジ、コメツツジ、ヤマツツジなど、ツツジ科植物が多い。それにムシカリ、ノリウツギ、ヤマウルシ、テツカエデなどが混交し、林縁にはホソバコゴメグサ、ノギラン、マイズルソウ、ヤマハハコ、シモツケソウ、オヤマボクチ、ニッコウキスゲなどが生育する。

風当りのいっそう強い海拔1,500m付近のゆるやかな斜面には、風衝草原が広範囲に発達する。表土が厚く、ニッコウキスゲを主にオヤマボクチ、アオヤギソウ、エゾノヨロイグサ、ツリガネニンジン、ヒトツバヨモギなどが生育し、その下層にマイズルソウ、ウメバチソウ、エチゴキジムシロ、イブキゼリ、シオガマギクなどがみられる。

群馬県側の南東斜面は、草丈1mほどのササ草原で、ムシカリ、タニウツギ、ダケカンバなどがぬきん出て点在し、山頂へと続く。

これより上部の山頂までの間は、角礫



▲図16 コナラの老木に着生したミヤマウド



▲図17 三国山で見られるニシキウツギ(撮影、樋熊清治氏)



▲図18 群馬県側の法師沢上信越遊歩道沿いに多いヤブレガサ

からなる急なガレ場で、ベニサラサドウダン、オオコメツツジなどツツジ科植物を主にノリウツギ、ツノハシバミ、サビハナカマド、ミズナラ、ヤマウルシ、ダケカンバなどの混交する低木群叢が緑の島のように点在する。その縁には、稀産種のイワインチンや、マイヅルソウ、ミヤマカラマツ、エチゴキジムシロ、ノギラン、タガネソウ、シシガシラ、トリアシショウマ、コキンレイカ、ヌマガヤなどが生育してお花畠を形成し、付近の西側斜面には樹高4~8mの稀産のウラジロモミが点在する。

山頂は風衝低木林で、樹高3mほどのベニサラサドウダン、クロマメノキ、ノリウツギ、テツカエデ、ハウチワカエデ、コミネカエデ、ヤマウルシなどが混交する。

ここからの谷川連峰の景観はすばらしいものである。

三国山南西部の岩礫地やその上部域に展開する草原やお花畠を構成する主な種類を木本と草本に分けて上げると次のようになる。

木本類：ホツツジ、ベニサラサドウダン、コメツツジ、ヤマツツジ、コヨウラクツツジ、ウラジロヨウラク、サビハナカマド、ハコネウツギ、クロズル、ノリウツギ、ネコシデ、ニガイチゴ、シモツケ、コバノトネリコ、リョウブ、ムシカリ。

草本類：イワインチン、ソバナ、ニッコウキスゲ、キオン、イブキゼリ、ヒトツバヨモギ、エゾシオガマ、オヤマノリンドウ、タムラソウ、クガイソウ、シラネアオイ、ヌマガヤ、ヤマノハコ、ハコネギク、イワオトギリ、オヤマボクチ、ヤマブキショウマ、エチゴキジムシロ、ケイタドリ、アオヤギソウ、イワノガリヤス、エゾノヨロイグサ、ヤグルマソウ、ツリガネニンジン、ノアザミ、ヘビノネゴザ、ヒメスゲ、オオバギボウシ、ヒゲノガリヤス、ウメバチソウ、ショウジョウスゲ、オオカサモチ、コキンレイカ、ミヤマヌカボ、ハナイカリ、シオガマギク、ノギラン、ヤマトリカブト。

三国山脈を越えて新潟県側でも生育している主な表日本植物

三国山脈を越えて群馬県で生育している雪国の植物、いわゆる日本海要素植物は多く、当該植物のほとんどが群馬県側で見られる。しかし逆に表日本系植物が三国山脈を越えて新潟県側の三国山周辺で生育しているのは少なく、その主なものはウスヒメワラビ、ニシキウツギ、ミヤマヤシャブシ、クリンユキフデ、オオバショウマ、アサノハカエデ、ヒカゲツツジ、バイカツツジ、トウゴクミツバツツジ、ナツグミ、フシグロセンノウ、シモツケ、ウラジロモミ、マンサクなどである。

分布や生態の上で顯著な植物

三国山周辺で注目すべき種の抽出に当っては、下記の基準を設けた。

A：稀産種。

B：近年減少の著しいもの。

C：分布限界など、分布上興味のあるもの。

D：その他、学術上重要なもの。

1) ウスヒメワラビ (基準A)

オシダ科の夏緑性のシダ植物。暖地系の植物で、本州（福島県の会津地方以西）、四国、九州の山地林内に生育する。新潟県では稀産で、三国山周辺では、三国トンネル付近の登山道沿いに生育している。

2) ミヤマノキノブ (基準A・C)

ウラボシ科の常緑性のシダ植物。北海道から九州にかけて分布しているが、新潟県では稀産である。当地域では、松手山付近、三国峠、群馬県側の法師沢沿いのブナ林、ミズナラ林の樹幹に着生している。

3) ウラジロモミ (基準A・C・D)

マツ科の常緑針葉高木。本州（中部）および四国に分布している。雪国の日本海気候区下にある新潟県での分布は注目される。当地域では、三国山付近、群馬県側の法師沢沿いに点在している。

4) イヌブナ (基準C)

ブナ科の落葉高木。本州、四国、九州の山地に生える。当地域では、三国山脈の群馬県側で多く見られるが、新潟県側では確認されておらず精査が望まれ、分布上興味深い。

5) クリンユキフデ (基準A・C)

タデ科の多年草。本州（福島県以西）、四国に分布している。日本海気候区下での分布は注目される。当地域では、県境の三国トンネルからの登山道沿いに生育している。

6) フシグロセンノウ (基準A・C)

ナデシコ科の多年草。本州（関東、中部および西部）、四国、九州の山中林地に生える。新潟県では稀産で、当地域の元橋、浅貝集落付近に多く生育している。

7) オオバショウマ (基準A・C)

キンポウゲ科の多年草。本州、四国、九州に分布する。冬期の積雪量の多い新潟県での分布は注目に値し、当地域では、元橋から松手山に至る登山道沿いのミズナラ林の林床に群生する。

8) オオヤマレンゲ (基準A・C)

モクレン科の落葉低木。本州（関東、中部、近畿地方）、四国、九州の深山に生育する。当地域では、三国トンネ

ル付近で個体数も少ない。

9) ナツグミ (基準A・C)

グミ科の落葉小喬木。北海道、本州、四国、九州の山野に分布する。新潟県では稀産で、当地域では、元橋から松手山に至る登山道沿いに生育している。

10) バイカツツジ (基準C)

ツツジ科に属する落葉低木。北海道（南部）、本州、四国、九州の山地に分布する。冬の雪深い日本海気候区下での分布は注目される。当地域では、元橋の河内沢、三国峠、群馬県側の法師沢などである。

11) トウゴクミツバツツジ (基準C)

ツツジ科の落葉低木。本州（中部地方以北）の山地に分布する。日本海側に分布の本拠をおくユキグニミツバツツジとは分布を異にする。当地域では、三国トンネル、三国峠付近、群馬県側の法師沢沿いで多く見られる。

12) アブラツツジ (基準C)

ツツジ科の落葉低木。本州（中部地方以北）の山地に分布する。新潟県では、県中央部南端の魚沼地方に分布している。当地域では、三国トンネル、三国峠付近、三国山から大源太山に至る尾根筋に生育している。

13) ニシキウツギ (基準 A・C)

スイカズラ科の落葉低木。本州（東北地方の南部から西）、四国、九州の特産。日本海側の山地丘陵に分布するタニウツギに似ているが、花は初め淡黄白色で、後に紅色に変る。当地域では、三国トンネル、三国峠、浅貝の北ノイリ沢、湯之沢に生育している。

14) イワインチン (基準 A・C)

キク科の多年草。本州の北・中部の山地に分布する。新潟県の分布は飯豊連峰（梅花皮岳付近）と谷川連峰だけである。当地域では、三国山南面の山頂付近のガレ場に生育している。

15) サワギク (基準 A・C)

キク科の多年草。北海道、本州、四国、九州に分布する。新潟県のような雪深い日本海気候区での下分布は珍らしく、当地域では、元橋の河内沢に生育している。

16) イワタバコ (基準 A・C)

キク科の多年草。本州、四国、九州の陰湿な崖地に生える。新潟県でも稀産で、当地域では浅貝の湯之沢に生育している。
(坪谷富男氏確認)

17) ユモトマムシグサ (基準 A・C)

サトイモ科の多年草。本州の関東以北の山地に生える。新潟県での分布は苗場山付近に限られ、当地域では、浅貝の湯

之沢に生育する。(石沢進氏確認)

18) ギョウジャニンニク (基準 A)

ニンニクと同じような強い臭気のあるユリ科の多年草。北海道、本州（主に北・中部）の山地に分布する。新潟県では、主に群馬県や長野県と接する亜高山帯に分布する。当地域では、三国峠付近に生育する。

19) スズラン (基準 A・C・D)

ユリ科の多年草。北海道、本州、九州に分布する。新潟県では、元橋から松手山に至る間に生育し、唯一の産地である。



▲図19 松手山で見られるオオバショウマ



▲図20 県内唯一の産地松手山のスズラン

平成3年度事業報告

資料収集・調査

〔地学研究室〕

- 試料採集 柏崎市：5月
小千谷市：10月
- 研究協議 新潟市：3月（2回）
東京都：3月

〔植物研究室〕

- 植物分布調査 南魚沼郡湯沢町：4月（2回）、5月
(3回)、7月、8月

- 研究協議 新潟市：3月
東京都：3月

〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 糸魚川市：4月
柄尾市：5月
南魚沼郡湯沢町：6月、7月
岩船郡栗島浦村：6月
中頸城郡妙高高原町：10月

〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 岩船郡栗島浦村：4月
南浦原郡下田村：5月、6月、10月
- 研究協議 千葉県我孫子市：3月

〔歴史研究室〕

- 資料調査 村上市：3月

〔民俗研究室〕

- 舞女唄調査 北蒲原郡黒川村：5月

学会・研修会・協議会

- 平成3年度新潟県博物館協議会総会 4月15日、新潟市（参加：鈴木館長）
- 新潟県民俗学会平成3年度年会 5月19日、新潟市（参加：鈴木館長）
- 第33回北信越博物館協議会総会及び研究協議会 6月11・12日、金沢市（参加：西山館長補佐）
- 平成3年度新潟県博物館協議会運営研究会 6月20日21日、南魚沼郡塩沢町（参加：鈴木館長、力間学芸員補、安藤主事）
- 新潟県考古学会研究会 6月22・23日、糸魚川市（参加：駒形主査）
- 新潟県民俗学会採訪調査会 7月7日、小千谷市（参加：鈴木館長）
- 日本鳥学会 9月14・15日 東京都（参加者：渡辺副主幹）
- 平成3年度新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 9月18・19日、小布施市（参加：鈴木館長）

- 日本民俗学会第43回年会 10月5日、東京都（参加：鈴木館長）

- 新潟県民俗学会共同採訪 10月26・27日、五泉市（参加：鈴木館長）

- 日本鞘翅目学会大会 11月17日、千葉市（参加：山屋主任）

- 日本考古学協会大会 11月23・24日、仙台市（参加：駒形主査）

- 新潟県民俗学会役員会並びに談話会 3月28日、新潟市（参加：鈴木館長）

普及活動

- 地層と化石の観察会

5月12日、柿川上流、参加者15人。7月21日、長岡ニュータウン周辺、参加者41人。

- 早春の植物を観察する会

4月28日、栖吉町周辺、参加者24人。

- 親子の夏の植物観察会

7月29日、成願寺町周辺、参加者31人。

- 秋の植物観察会

9月29日、鷺巣町定正院周辺、参加者9人。

- キノコを調べる会

10月10日、国営越後丘陵公園建設地、講師：長岡技術科学大学教授 宮内信之助先生、参加者89人。

- キノコの展示会

10月11・12日、科学博物館展示室、講師：長岡キノコ同好会事務局 原信高先生。

- 雪国植物の越冬を調べる会

11月24日、鷺巣町定正院周辺、講師：植物研究家 関繁雄先生、参加者13人。3月29日、鷺巣町定正院周辺、講師：植物研究家 関繁雄先生、参加者22人。

- ギフチョウ探蝶会

4月29日、成願寺町周辺、参加者16人。

- 初夏の昆虫観察会

6月16日、大積町赤池周辺、参加者11人。

- 国営公園親子昆虫標本づくり教室

8月11・12日、国営越後丘陵公園建設地、参加者24人。

- 越冬昆虫を調べる会

11月23日、栖吉町城山周辺、講師：昆虫研究家 横熊清治先生、参加者19人。

- 野鳥相をしらべる会

調査地：六日市町十二平周辺

4月28日、参加者26人。5月26日、参加者14人。6月23日、参加者26人。7月28日、参加者21人。8月25日、参加者15人。9月29日、参加者20人。10月20日、参加者11人。11月24日、参加者12人。

◦信濃川バードウォッキング

5月12日、信濃川左岸（長生橋～長岡大橋）、参加者32人。

◦野鳥集会と探鳥会

5月18・19日、大積灰下町灰下鉱泉及びその周辺、参加者26人。

◦大河津分水探鳥会

11月3日、大河津分水周辺、参加者14人。

◦悠久山探鳥会

11月17日、悠久山～百間堤、参加者14人。

◦冬鳥さよなら探鳥会

3月22日、信濃川（長生橋上流）、講師：長岡野鳥の会評議員 古川英夫先生、参加者25人。

◦縄文土器をつくる会

5月18・19日（造形）・6月9日（野焼き）、深才公民館及び藤橋遺跡自由広場、講師：陶芸作家今千春先生、参加者39人。

◦縄文時代の石器をつくる会

7月7日、藤橋遺跡ガイダンス施設、参加者5人。

◦第40回生物標本展示会・第33回自然科学写真展示会
10月24日～10月27日、会場：厚生会館中ホール、出品者数228人、出品点数6,535点、入場者数延956人。

◦第28回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月27日、会場：厚生会館第2小ホール、発表：小学生の部10題、中学生の部1題、高校生の部3題、入場者延109人。

◦科学博物館講演会

11月2日、会場：中央公民館401教室、演題：長岡の年中行事と暦、講師：新潟県文化財保護審議会委員 駒形恵先生、民俗研究室の報告：長岡の絵馬、当館長 鈴木昭英、入場者39人。

◦植物標本の名前をしらべる会

8月29日、中央公民館401教室、参加者59人。

◦昆虫標本の名前をしらべる会

8月28日、科学博物館学習室、参加者18人。

◦'92ながおか雪しか祭り（特別展示）

2月14日～16日、会場：ハイブ長岡大ホール 展示テーマ：雪国の民俗展示 入場者：29,000人

青少年科学活動促進事業

地域の教育力を活用し、青少年の科学する心を育むことを目的に実施した。

◦少年少女青ざら科学教室

5つの教室を開設し、対象は小学5・6年生とした。

教室名	人数	期間	回数
地学教室	13人	5月～11月	7回
緑の科学教室	12人	5月～11月	8回
昆虫科学教室	8人	5月～11月	9回
野鳥科学教室	7人	5月～11月	9回
縄文教室	27人	5月～11月	10回

◦少年少女科学フェスティバル

11月10日、中央公民館大ホール、参加者69人。

学習成果の発表、作品展示、閉講式。

総合博物館建設のための事業

◦長岡市立総合博物館（仮称）展示委員会の設置

◦顧問（敬称略）

氏名	職名
杉山二郎	佛教大学教授
佐々木朝登	柳丹青社顧問

◦委員（敬称略）

	氏名	職名
地学	納口恭明	長岡雪水防災実験研究所主任研究室官
	小林巖雄	新潟大学理学部教授
植物	石澤進	新潟大学理学部助教授
	小島誠	新潟大学農学部教授
昆虫	○樋熊清治	新潟県自然環境保全審議会委員
	遠山富士雄	栃尾市立刈谷田中学校教頭
動物	村山均	にいがた貝友会会长
	金安健一	出雲崎町立出雲崎中学校教諭
考古	小野昭	新潟大学人文学部教授
	中島栄一	新潟市立明鏡高等学校教頭
歴史	金子達	県立新潟西高等学校教諭
	土田隆夫	県立与板高等学校校長
	稻川明雄	長岡市市史編さん室室長補佐
◎吉沢俊夫		長岡郷土史研究会会长
民俗	駒形恵	新潟県文化財保護審議会委員
	高橋由雄	県立長岡農業高等学校教諭

◦委員長、○副委員長

◦委員会の開催

9月11日 第3回全体会 長岡市教育センター

12月17日 第4回全体会 長岡市教育センター

◦資料収集・調査

地学部門 北魚沼郡守門村：12月、1月（2回）、

3月

植物部門 南魚沼郡湯沢町：11月、12月、2月

茨城県つくば市：12月
 新潟市：3月（2回）
昆虫部門 佐渡郡金井町：6月、9月、3月
 埼玉県浦和市：3月
動物部門 糸魚川市：9月（2回）
 五泉市：10月（2回）
 新発田市：12月（2回）、2月
 三条市：12月、3月
 両津市：3月
 三島郡出雲崎町：2月
民俗部門 長岡市蓮平町：1月
・先進博物館視察
 9月24日 十日町市博物館
 3月9日 大阪府立弥生文化博物館
 3月10日 堺市博物館
 3月17日 群馬県立歴史博物館
 3月18日 国立歴史民俗博物館

出版物

・館報（N K H）	
・60号 生物研究発表会特集	700部
・61号 特集：三国山周辺の植物	700部
・博物館研究報告 第27号	500部
・新潟県長岡市浦瀬川ルートに分布する 鮮新—更新統の古地磁気	加藤正明
・新潟県の水草(2)ヒシ属・タヌキモ属	刈屋 寿・伊藤 至
・ムジナモの発芽	片桐義昭
・信濃川の河辺植物（第13報）	西山邦夫・荒井キミ 支流魚野川の河辺(4)
・粟島の鞆翅目	山屋茂人・武田 宏
・杉山徹朗氏寄贈のか類標本目録(1)	杉山徹朗・山屋茂人
・守門岳の鳥類（繁殖期）	渡辺 央

あとがき：三国山周辺の植物と併せて平成3年度の事業報告を掲載しました。

新潟県には国立公園が4か所、国定公園が2か所、県立公園が13か所、その他県指定の自然環境保全地域・緑地環境保全地域があります。

これらのうちで、行きやすく、高山の雰囲気が味わえ、多くの高山植物が観察できる山として、ここに三国山を取り上げました。今後、順次これらの公園のゆたかな緑について機会あるたびに紹介し、多くの方々にすばらしい越後の自然を知っていただきたいと思います。（西山）

- ・岩野原の土偶 駒形敏朗・石川智紀
- ・白鳥の備蓄銭 力間智子
- ・与利兵衛の廻国納経 鈴木昭英
- ・博物館資料シリーズNo.2

職員の異動

昇任（平成4年4月1日付・3月26日内示）

西山邦夫（副参事・館長事務取扱）

転入（平成4年4月1日付・3月26日内示）

渡辺恒夫（館長補佐）総務課より

昇任（平成4年4月1日付・3月26日内示）

駒形敏朗（副主幹）

退職（平成4年3月31日付・3月26日内示）

鈴木昭英（参事・館長事務取扱）

採用（平成4年4月1日付・3月26日内示）

鈴木昭英（長岡市郷土史料館館長・嘱託）

長岡市郷土史料館を科学博物館が管轄する

総合博物館構想の具体的な実現を図るため、郷土史料館を4月1日付けで商工部商業観光課から教育委員会科学博物館へ所管替えされる。

平成3年度月別入館者数

月別	個人		団体			資料照会		計	
	大人	子供	団体数	大人	団体数	子供	大人	子供	
3. 4	391	126	2	64	11	1,313	48	3	1,945
5	518	205	2	124	24	1,915	33	1	2,796
6	388	157	—	—	3	185	41	2	773
7	428	241	3	86	4	151	55	6	967
8	894	468	2	24	1	5	33	29	1,453
9	349	98	5	97	2	283	23	2	852
10	591	116	4	121	2	131	73	—	1,032
11	392	90	5	82	3	52	48	2	666
12	234	58	—	—	—	—	43	—	335
4. 1	208	69	—	—	—	—	30	—	307
2	198	46	—	—	—	—	28	—	272
3	321	118	2	108	2	55	32	—	634
合計	4,912	1,792	25	706	52	4,090	487	45	12,032

N K H（長岡市立科学博物館報）No.61

平成4年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940 長岡市柳原町2-1

印刷所 (株)北越時報社

長岡市住吉2-5-13